

(提案書 様式①-2)

協働の機会提案書(継続提案用)

平成30年 9 月 25 日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 23-003
 名称 NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会
 所在地 印西市木刈 3-9-1
 代表者職氏名 理事長 矢野眞理 ㊞
 連絡先 白井市大山口 2-4-6-503
 電話 :

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>武西の里山 保全と調査事業</p>
<p>現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)</p>	<p>平成30年度の調査により、植物やそれにつながる動物、また両性類などの姿がより鮮明になってきました。これにより、どこをどのようにいつ保全することが、生物多様性を維持し育むことになるのか、保全方法についての手掛かりが見えてきました。また、印西市との協働により、草刈り作業を今までよりも広く行うことができるようになり、クズやセイタカアワダチソウが繁茂してしまったエリアを在来の植物が芽吹きやすくなるような環境に整えることができました。</p> <p>昔、人の生活と生き物が共生していた里山。人の生活様式が変わり、里山と人のかかわりが薄くなってしまった今、里山環境を守る保全活動は、なくてはならないものです。協働事業を通して得た経験を積み上げ、その結果を生かして、多様性を守る管理方法やルールを作り、市民が参加しやすい方法を確立する必要があります。</p> <p>また、今後、人が入ることのリスクを、どのように自然との共生につなげていくか。どのようにグリーンインフラとして地域の環境に利する活用計画をつくっていけるかという課題があります。</p>
<p>提案理由</p>	<p>印西市との協働事業が進むにしたいが、今まで以上に武西の里山の保全・調査について意思疎通、作業協力が可能になりました。里山を保全するための課題を乗り越えるには、さらに経験と調査結果を積む必要があります。協働の関係のなかで問題・実績を市と共有しながら、事業を進めていきたいと考え、継続の提案をいたします。</p>

<p>提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)</p>	<p>1. 保全事業 1) 草地の草刈り 2) 湿地の手入れ・キシノウブなどの外来種除去 3) ゴミ拾い</p> <p>2. 調査・研究事業 (東邦大学・千葉県中央博・茨城県自然博 協力) 1) 植物 2) 動物 両生類・昆虫類・魚類 3) 水質 4) モニタリング ① アカガエル卵塊 ② メダカ ③ ヘイケボタル ④ 一般鳥類 ⑤ 猛禽類</p> <p>5) 大学(東邦大学・東京大学) の地域の環境に資する研究への協力 ① 植物 ② 昆虫 ③ 湿地と台地の生きものと水環境</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>当会は 2008 年から対象地が千葉県企業庁から印西市と白井市に無償譲渡される前年度まで、企業庁に立ち入り申請を行い、荒廃による環境の劣化を防ぎ、自然環境を維持する保全活動と、高い頻度で現場に入って行う環境調査やモニタリングを展開してきました。市有地となった現在も調査・研究と保全作業をシステムとしてつなげ、里山の自然環境を維持・再生していく活動を続けています。</p> <p>また、安全面についても定期的に草刈りや草刈り機器の扱い、安全講習を行い、技術と安全性の向上に努めています。</p> <p>約 10 年間にわたって積み上げて得た保全の方法と、調査による具体的な環境の把握の実績は、今後市が管理保全していく上で参考になるのではないかと考えています。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>1. 環境の劣化を防ぎ、生物多様性を維持、育むことができる 2. 里山の景観を良好に保つことができる</p> <p>今後の展望</p> <p>1. 市民と行政の協働による里山環境の保全の手法を育てる 2. 都市に隣接した里山の生態系という特質をいかした里山の姿を構築する</p>

協働事業計画書		
事業名	武西の里山 保全と調査事業	
事業の目的	生物多様性のある自然環境を維持・再生する	
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名)かけがえのない自然環境の保全と活用 (部署名)環境保全課	
事業期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 平成 32 年 3 月 31 日	
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市
	<p>一、保全事業</p> <p><u>1.保全作業</u></p> <p>1)草地の草刈り</p> <p>2)湿地・水辺の手入れ</p> <p>3)ガラス片などのゴミ拾い</p> <p><u>2. 環境調査</u></p> <p>1)植物調査</p> <p>2)昆虫調査</p> <p>3)水辺の生きもの調査</p> <p>4)水質調査</p> <p>5)モニタリング</p> <p style="margin-left: 20px;">①ニホンアカガエル卵塊</p> <p style="margin-left: 20px;">②キタノメダカ</p> <p style="margin-left: 20px;">③ヘイケボタル</p> <p style="margin-left: 20px;">④一般鳥類</p> <p style="margin-left: 20px;">⑤猛禽類</p> <p>二、以上の事業の宣伝と報告</p>	<p>1. 草刈機の貸し出し 草刈り機を貸し出し、運搬する。</p> <p>2. 貸出草刈り機の燃料を負担する。</p> <p>3. ゴミの収集 (クリーン印西推進運動)</p> <p>4. 地元や関係各所との調整</p> <p>5. 広報いんざい の広報</p>
事業に要する経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	0 円	497,000 円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	環境調査・保全協力: 東邦大学理学部保全生態学研究室 西廣淳氏 同植物生態学研究室 下野綾子氏 植物同定: 茨城県自然博物館 小幡和男氏 昆虫同定: 日本蜻蛉学会会員 柄澤保彦氏	

	提案者	市民	市
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	①市と協働することで団体の事業をより公のものとしてすることができる ②市と協働することによってフィールドの将来について、より深く協力することができる ③会の特性を生かすことができる	①不法立ち入りや不法なゴミ投棄に対する近隣住民の、心配や不安を取り除くことができる ②生物多様な自然環境を享受することができる ③環境教育や大学等研究機関の研究に役立てることができる	①自然環境の維持と再生を行うことができる ②行政・市民・研究機関との協力による、市の生物多様性保全のモデルケースとして育てることができる
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	市役所にて直接の打合せ・メール・電話		
事業の周知や評価の方法 <small>(具体的な目標値など)</small>	事業の周知:市の広報・チラシ・市の催しなどでの展示・市民活動支援センターを通じた発信・ミニコミ紙・ホームページ 評価:作業前後の写真、事業の記録、環境調査・モニタリングによる結果 収集したごみの量		
備 考	関係団体等		
	その他(添付書類等)		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1,326,000 円

市から団体への委託費 （金 497,000 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	作業費、機材購入費、報償費、保険料、消耗品費、印刷費	497,000
その他収入		0
提案者負担分		0
無償労働力等換算金額	無償労働力、無償機材	(829,000)
合 計（無償分を含めない）		497,000
無償分を含めた合計額		(1,326,000)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
作業費	保全作業・緑作の原っぱの草刈り $5,750 \text{ m}^2 \times 60 \text{ 円} / 1 \text{ m}^2 = 345,000 \text{ 円}$	345,000
機材購入費	目印用の棒 $60 \text{ 円} \times 50 \text{ 本} = 3,000 \text{ 円}$ 鎌 $1,500 \text{ 円} \times 2 \text{ 個} = 3,000 \text{ 円}$ 熊手 $300 \text{ 円} \times 5 \text{ 個} = 1,500 \text{ 円}$ ガラス片など除去用ふるい $1,000 \text{ 円} \times 2 \text{ 個} = 2,000 \text{ 円}$ シャベル $1,000 \text{ 円} \times 2 \text{ 個} = 2,000 \text{ 円}$ ルーペ $2,000 \text{ 円} \times 5 \text{ 個} = 10,000 \text{ 円}$	21,500
報償費	刈払機講習会講師謝礼 30,000 円 植物調査講師謝礼 $5,000 \text{ 円} \times 8 \text{ 人} = 40,000 \text{ 円}$ 昆虫調査講師謝礼 $5,000 \text{ 円} \times 2 \text{ 人} = 10,000 \text{ 円}$	80,000
保険料	ボランティア保険料 30,100 円	30,100
消耗品費	川の水調査セット TZ-RW、パックテスト ZAK-COD など 9,400 円 調査用紙 5,000 円	14,400
印刷費	環境調査報告書の印刷用インク 6,000 円	6,000
提案者が負担する 無償労働力	保全・水辺の整備 $5 \text{ 人} \times 3 \text{ 時間} \times 5 \text{ 日} = 75 \text{ 時間}$ 保全・ガラス片など除去 $10 \text{ 人} \times 3 \text{ 時間} \times 4 \text{ 日} = 120 \text{ 時間}$	(653,000)

	メンテナンス 5 人 × 2 時間 × 2 日 = 20 時間 講習会 10 人 × 3 時間 × 1 日 = 30 時間 植物調査 4 人 × 3 時間 × 10 日 = 120 時間 昆虫調査 3 人 × 5 時間 × 8 日 = 120 時間 水辺の生きもの調査 5 人 × 3 時間 × 2 日 = 30 時間 水質調査 3 人 × 3 時間 × 2 日 = 18 時間 モニタリング調査 3 人 × 3 時間 × 10 日 = 90 時間 報告書作成 5 人 × 3 時間 × 2 日 = 30 時間 合計 653 時間 × 1,000 円 = 653,000 円	
提案者が負担する 無償機材等	小型草刈機 2 台、刈払機 4 台、チェーンソー 1 台など 8,000 円 × 14 日 = 112,000 円 気象モニター測定器 1,000 円 × 32 日 = 32,000 円 報告書作成用カメラ 1,000 円 × 32 日 = 32,000 円	(176,000)
合 計 (無償分を含めない)		497,000
無償分を含めた合計額		(1,326,000)

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
2019年4月	保全・水辺の整備①	5名
	保全・ガラス片など除去①	10名
	植物調査①(講師依頼①)	4名
	昆虫調査①	3名
	水辺の生きもの調査①	5名
	モニタリング調査・猛禽類①	3名
	2019年5月	保全・草刈り①(乗用使用①)
保全・水辺の整備②		5名
植物調査②		4名
植物調査③		4名
昆虫調査②		3名
モニタリング調査・猛禽類②		3名
安全講習会		10名
2019年6月	保全・草刈り②	11名
	保全・草刈り③(乗用使用②)	11名
	保全・水辺の整備③	5名
	植物調査④(講師依頼②)	4名
	昆虫調査③(講師依頼①)	3名
	モニタリング調査・猛禽類③	3名
	2019年7月	保全・草刈り④
植物調査⑤		4名
昆虫調査④		3名
モニタリング調査・猛禽類④		3名
モニタリング調査・ヘイケボタル①		3名
モニタリング調査・ヘイケボタル②		3名
2019年8月		植物調査⑥(講師依頼③)
	昆虫調査⑤	3名
2019年9月	保全・草刈り⑤(乗用使用③)	11名
	保全・水辺の整備④	5名
	植物調査⑦	4名
	昆虫調査⑥(講師依頼②)	3名
2019年10月	植物調査⑧(講師依頼④)	4名
	昆虫調査⑦	3名
	メンテナンス①	5名

2019年11月	保全・水辺の整備⑤	5名
	植物調査⑨	4名
	昆虫調査⑧	3名
	水質調査①	3名
	水質調査②	3名
	水辺の生きもの調査②	5名
	モニタリング調査・メダカ	3名
2019年12月	保全・草刈り⑥(乗用使用④)	11名
	保全・ガラス片など除去②	10名
2020年1月	保全・ガラス片など除去③	10名
	モニタリング調査・一般鳥類	3名
2020年2月	保全・草刈り⑦	11名
	モニタリング調査・ニホンアカガエル卵塊①	3名
	報告書作成①	5名
2020年3月	保全・草刈り⑧	11名
	保全・ガラス片など除去④	10名
	植物調査⑩	4名
	モニタリング調査・ニホンアカガエル卵塊②	3名
	メンテナンス②	5名
	報告書作成②	5名

*状況によって時期や内容は変更することがある

保全・草刈り	8日(2018年度比2日減) (うち4日、市の乗用草刈機バロネス借用)
保全・水辺の整備	5日(2018年度比1日増)
保全・ガラス片など除去	4日(2018年度比2日減)
植物調査	10日(2018年度比7日減)
昆虫調査	8日(2018年度比1日減)
水辺の生きもの調査	2日(2018年度比1日増)
水質調査	2日(2018年度比±0)
モニタリング調査・ニホンアカガエル卵塊	2日
モニタリング調査・メダカ	1日
モニタリング調査・ヘイケボタル	2日
モニタリング調査・一般鳥類	1日
モニタリング調査・猛禽類	4日
安全講習会	1日(2018年度比1日減)
メンテナンス	2日(2018年度比±0)
報告書作成	2日(2018年度比±0)